((参考資料)) 『**脳を活かす勉強法**』（茂木健一郎）

人間が万物の霊長たるゆえんは、この「学習する力」にほかなりません。ほかの動物には、これほどの「学習する力」はないと考えられています。

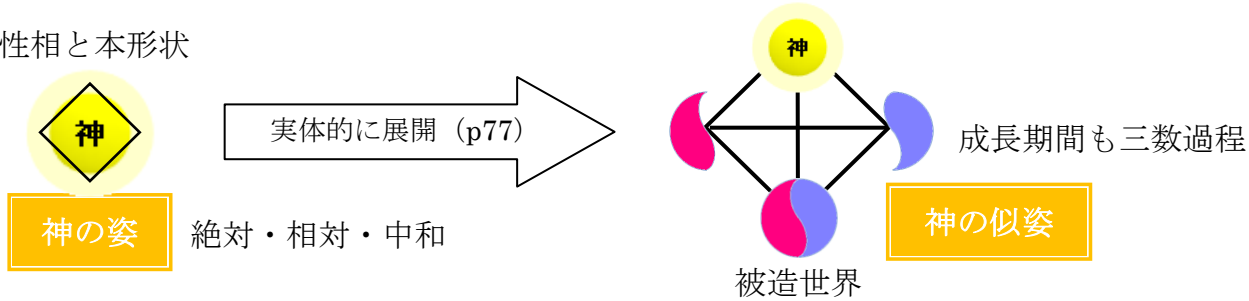
いわゆる本能というかたちで生物に先天的にプログラミングされている生存技術で考えれば、昆虫や他の動物のほうがよほど優れているといえるでしょう。昆虫は親に教わらなくても、餌の取り方や空の飛び方を知っています。また、同じ哺乳類でも牛や馬の赤ちゃんは、生まれた直後にすぐ立ち上がれます。

一方、生まれたばかりの人間の脳は、白紙に近い状態です。（p10～11）

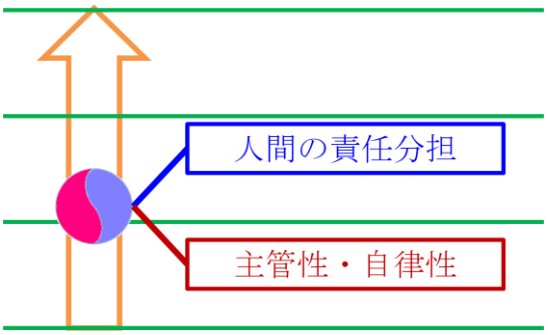
人間の脳は、誕生時にはほぼ白紙に近い状態にあります。天才とは、天才になるような学習のしかたを知っている人。別の言い方をすると、努力（学習）のしかたを知っている人が、天才なのです。（p144）

Ⅰ．成長期間の秩序的三段階について

本性相と本形状



Ⅱ．間接主管圏と人間の責任分担



被造物が成長期にある場合には、原理自体の主管性、また自律性によって成長するようになっている。

∴ 神の間接主管圏 or 原理結果主管圏

but 人間は、それ自身の責任分担を全うしながら、この期間を経過して完成するよう創造された。

Ⅲ．人間がそれ自身の責任分担を完遂してこそ完成されるように創造なさった理由

人間が神も干渉できない、彼の責任分担を完遂することにより

①神の創造性までも似るように

神の創造の偉業に加担するようになさることによって

②創造主の立場で万物を主管することができる主人の権限をもつように